

ワケ カタチには理由がある(26)

Shape follows Function &
Taste

～スピットファイア(Spitfire)Mk.VII



[スピットファイア
Mk.V と→]



スピットファイアは、第二次世界大戦の緒戦から戦後まで多様なタイプが作られました。この Mk.VII はマーリンエンジン



タイプの後半のタイプになります。初期のスピットファイアは、楕円翼もあって、丸っこく子供のイメージがありますが、機首やラジエータの変化もあって、基本的なテイストを維持したまま、だんだん青年っぽいイメージに変化していきます。マーリンエンジンはシリンダーヘッドが上部に並ぶので、機首上面が平らになる印象があり、華奢な胴体に反して幅方向に張り出した機首に迫力を感じます。特に、この模型の機体は、主翼端及び垂直尾翼上端が尖った高高度タイプで、ブルーグレーの単色に塗られた高高度用塗装と相まってスピットファイアの翼型形状の特異さが強調されます。右側面の排気管下にはインレットが取り付けられており、コクピットは与圧されていることがわかります。ちなみに、主翼と胴体後半に描かれた黒白の帯は、連合軍の大規模反攻作戦 D-DAY の際の味方識別マーキングで、インベイジョンストライプス(Invasion Stripes : 侵攻縞模様)と呼ばれ、1944年6月6日の作戦決行日の前後に多くの作戦機に描かれました。

【模型について】

ハセガワ(Hasegawa)製 1/72 のインジェクションキットです。さすが飛行機のキット化に手慣れている会社だけに、シンプルなパーツ構成で、スピットファイアの華奢な胴体(個人的な好みかもしれませんが)と機首上面の平さの特徴を良くとらえています。(中川裕幸 2021年5月、改定 2024年4月)